



# 日本女医学会誌

復刊第 185 号  
2006 年 1 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

### 25 年間の 女医会をふり返って

副会長 石原幸子

あけましておめでとうございます。皆様には恙なくよいお年をお迎えの事と存じます。さて、昨年の総会に於て制定されました様に不肖私も本年度で定年となります。年頭に当り、たががはずれた様な思いと共にこの 25 年間の女医会をふり返ってみました。私が入会致し初めて女医会という中でお手伝いしたのは、1976 年の東京での第 1 回国際会議の時でした。当時女医会は 5,000 人の会員を擁し意気盛んで先輩方のエネルギーに圧倒されました。その後社会の趨勢でしょうか、男女共学が通例となり、年々会員が減少し、現在 1,800 人の会となりました。しかしながら、2002 年には日本女医会創立 100 周年を盛大に行い、更に一昨年は、東京での 2 回目の国際女医会議が開かれ、33 ヶ国から 400 人の外国人を迎え、立派に終わった事は、日本女医会の大きなステップとなったと思います。今日時代も変り、

社会的にも女性の地位がはっきりと固定されて来た事を実感致します。政界を見ましてもずらりと並んだ女性が目立ちます。マスコミにもあらゆる分野において新しい女性の進出が見られますが、女医というのはそれだけ仕事が厳しくなかなか外に出られない事を実感致します。この流れの中にあつて、日本女医会という組織は、社会にはっきりと根付きつつあり、子育て支援基金から、病児保育などに助成金を戴き立派な答申を致しております。先日厚労省の課長に招かれ、「日本女医会」の説明をして参りました。これも一歩前進かと思いました。少ない予算の中でいろいろ活動しようと致しましても、制限があり、それならば、公的助成金を戴こうと活路を見出し、行政に明るい加藤副会長の下、東奔西走して頑張っております。今年度は、すでに 2 つの助成を申請致し、決定されますと大きな活動につながってゆくと思われまます。数は力なりといわれまます様に、私共は一生懸命努力は致しておりますが、今後の発展のために益々その数の増加が必要となって参ります。会員の皆様には毎度のお願いで恐縮でございますが、おひとりが 1 名の勧誘をして下さいますと私共は倍增致します。今後の活躍のために一層お力添え下さいます様、切にお願いする次第です。  
宜しくお願い申し上げます。

## 日本女医学会誌 (第185号) もくじ

巻頭言 石原幸子.....	1	しるべ』.....	山崎康子 11
年頭所感.....	2	ワークショップ「病児保育を考える」を開催して.....	斎藤加代子 12
藤井美穂、秋山まり子、岸 よし、斎藤恵子、渡部光子、兼谷 啓、保田正子、岸 澄子、窪 斐子、坂本雅子、太田記代子、石井伸子、柗山 緑、外間登美子		日本女医会第 9 回ブロック懇談会.....	山下由起子、角田由美子 13
平成 17 年度 学術講演会		提言 日本にも子ども家庭省を.....	水島広子 14
学術講演会を開催して.....	山本纈子 7	支部だより 若い先生方の入会を.....	大竹輝子 15
睡眠障害治療の重要性.....	伊藤 洋 7	理事会議事録 (9 月、10 月、11 月).....	16
第 8 回 国際女医会西太平洋地域会議.....	8	名簿記載項目についてのお伺い.....	18
見聞記.....	内潟安子 8	会員動静.....	18
目は口程にものを言うーCの大事.....	濱田啓子 9	告示/社団法人日本女医会 第 51 回定時総会のお知らせ.....	20
フィリピン印象記.....	斉藤恵子 10	編集後記.....	20
書評			
『女性医師からのメッセージ-医系キャリアアップの道			

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大变身 <http://www.jmwa.or.jp>

# 年頭所感

## 年頭のご挨拶

北海道支部 藤井美穂

あけましておめでとうございます。昨今の女性医師の勤務をめぐる全国的な波にともない、北海道支部も2005年は大変忙しい1年となりました。春の支部理事会・総会前に厚労省の「女性医師バンク計画」を受け、北海道保健福祉部から女性医師バンク設立に向け連携を取りたいと申し入れがあり、理事会で公聴会を開きました。

医学部女子学生の比率が全国平均で33%となり、女性医師の比率が50%に近づく時代を見越し、勤務における女性医師のサポート体制の整備が最重要課題であるという認識は誰もがもっています。バンク登録制も医師の分配という視点では有用でしょう。しかし、女性医師のキャリアが継続できる体制、すなわち妊娠・分娩・育児期間のワークシェアを確立すること、女性だからこそ経験できるリプロダクションを手に入れながら医学・医業を続けていくモチベーションを常に維持し続ける体制を構築することこそが最も重要と考えています。

北海道支部では5年ごとに北海道在住の女性医師の勤務実態調査、意識調査を行なっていますが、今回はバンク制についてどう考えるかについても調査を加えてみました。2006年1月には北海道医師会主催の「女性会員懇談会」が予定されていますが、話し合いだけに留まらず、形にできる提言となるよう準備したいと考えています。

日本医師会女性会員懇談会の構成メンバーとして2年に亘り、女性医師のおかれた現状について問題点の掘り起こしを行なってきました。2005年7月には第1回男女共同参画フォーラムのパネリストとして「女子医学生・女性勤務医の現状と課題」を報告しましたが、ここで浮かび上がってきたのが若い後輩達の、医業を続けることに対する不安でした。

私達、先輩が自らの問題点を解決していくと同時に、後輩達のよいモデルとなり、示していくことが重要であり、女医会がその活動の場として相応しいのではないかと再認識しました。2006年も引き続きこれら活動に拍車がかかることでしょう。子供たちを守る教育のサポート、医療法改正の波など多くの難題が積算されています。心身の健康を基礎に着

実に解決していこうではありませんか。

## あけまして おめでとうございます

秋田支部 秋山まり子

日本女医会秋田支部会員現在18名。支部長は、昭和33年から12年間白井とし先生、昭和45年から吉本ミチ先生が12年務められている。91歳でおいでの吉本先生は昨年第12回ノバルティス地域医療賞を受賞された。そして、昭和54年から伊藤玲子先生(9年間)、昭和60年から金子ミサヲ先生が19年間支部長をなさり、昨年秋山になりました。

女性医師が増加する中、秋田県医師会理事小笠原真澄先生が平成16年より日本医師会女性会員懇談会会員(12名)になりました。

これら多くの優れた面倒見の良い先輩を見習い、政府の診療費一律削減政策に抵抗して「乳幼児・女性高齢者保護」に向けて女医の皆様の意見を結集したいと思います。

## 若い女医に期待

山形支部 岸 よし

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年7月30日、待望の第1回男女共同参画フォーラムが日医会館大講堂で開催され、女医の働く環境整備に目が向けられました。これからは恵まれた環境で大いに活躍できることを期待していますが、甘んずることなく、殊に子育ては母乳で実践し、世の女性の手本となって頂きたいと思います。

次に日本医師会執行部への女医の参画が必須と考えます。日本女医会会員の中から是非出して頂きたいと思います。日本女医会の今年度の件案としては如何なものでしょうか。

日本女医会の今後ますますの発展を祈りつつ。

## 年頭所感

岩手県支部 齊藤恵子

あけましておめでとうございます。

昨年はマニラでの国際女医会西太平洋地域会議に参加を初めいろいろとありがとうございました。本年もよろしく願いいたします。

今年は政府による「女性医師の働く環境改善策、子育て支援策」が予算化され、各県に具体的な動きが期待されます。岩手でも県の事業として岩手県医師会に委託されました。岩手で医師として、また母として生きようとしている若き女性医師に希望ある豊かな日々が実現されるように組織としても個人としても応援していきたいと思っております。

性差医療も各分野でますます研究が深められていくことと思います。女性本来の強さ、弱さが理解され心身の健康増進、疾病の治療面に、活かされていくことと期待致しております。

さらに岩手の会員が専門分野のみでなく、この日本女医会の活動にも積極的に参加できる機会を提供し、意欲を高めるよう努めなければと存じます。よろしくご指導の程お願い申し上げます。

## 明けまして おめでとうございます

宮城支部 渡部光子

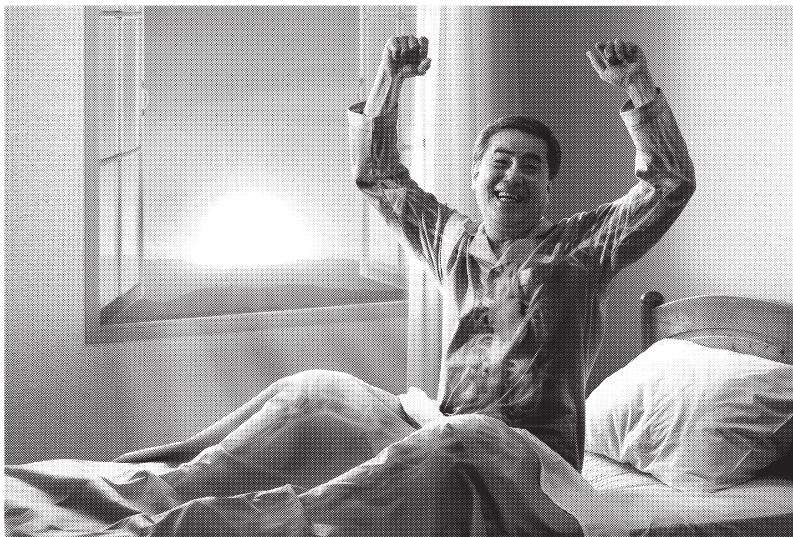
明けましておめでとうございます。

昨年もいろいろ大変な年でした。マンションやホテルの耐震偽造事件は新しい年に持ち越されていますが、居住する場所という基本にかかわる不安ということで、今の世相の危うさを象徴しているような気がします。女性や女兒が被害にあう事件が多発しているようにも見えます。一方、女性に加害する悲惨なケースもあり、なかなか割り切っただけに見定めにくい世の中だと思います。

暗い面ばかり見ていると仕方がありません。不調だったマラソンランナーの復活優勝やプロゴルファーの好成績など、若い女性の活躍も目立っていました。諸分野での女性の進出という流れは滞ることがないと思います。女医の果たす役割もより重要なものになっていくでしょう。

日本の医療状況はこれからますます難しい局面を迎えるようですが、皆さんと手をつないで切り拓いて行きたいと思っております。

どうぞ宜しくお願い致します。



胆汁排泄型持続性AT<sub>1</sub>受容体ブロッカー(テルミサルタン製剤) 薬価基準収載

**ミカルデイス<sup>®</sup>錠** 20mg  
40mg

指定医薬品、処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

Micardis<sup>®</sup>



■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

発売 アステラス製薬株式会社  
東京都板橋区蕨3-17-1  
[資料請求先] 本社 / 東京都中央区日本橋本町2-3-11

製造販売 日本ベーリンガーインゲルハム株式会社  
東京都千代田区猿樂町2丁目8番8号  
資料請求先: メディカルアフェアーズ部Oセンターグループ

05/8作成 A41/2.B.03

## 地球に優しく

福島支部 兼谷 啓

新年おめでとうございます。

昨年は多事多難な年でした。自然災害やテロ、子どもを巻き添えにした凶悪事件、なかでも洪水、大地震は人智の懸命な努力を阻害するかのようで、このままでは人間の存在はおろか「地球が崩れる」のではないかと恐れ震えました。

しかし、ただ怖れて拱手しているだけでなく、今年こそは人間の英知と勇気をもって立ち向かい、克服する努力をしなければならないと思います。

地球に優しく、人に優しく、そして自分にも優しくありたいと祈ります。

## 何時でも何処でも誰でも

山口支部 保田正子

新年おめでとうございます。

めでたさも中位とか、これからの日本の行く手や医療制度の行く手を憂え、みんなに公平かを自他に問いつつ、加速するIT化に戸惑いながら歩み始めようとしています。

平成17年歳末は日本医師会の“国民皆保険制度を守る署名運動”を熱心に行いましたが、政府案を何処まで修正できるのでしょうか？ともあれ「何時でも何処でも誰でも安心できる保険診療」が前提で、その上で質の向上とバランスを考えて欲しいものです。

個人的には開業まる50年を過ぎ、医業の使命も終わりに近いのですが、山口県ご出身の日野原重明先生を目標に過ごしていきたいと思う今日です。

## 新しい歳に期待

愛媛支部 岸 澄子

新年おめでとうございます。

昨年の後半には女兒殺人事件に続き、一級建築士による建築耐震構造偽装など一連の建設業界の実態には憤りを感じました。仕事に対するプライドと責任感の欠如による営利主義の結果なのでしょう。医療界でも財政改革という名のもとに国民皆保険制度が危うくなってきました。また医療事故や医療訴訟が絶えません。暗いニュースばかりですが、今医師

不足で女性医師バンクの設立が決定し、女性医師の就業が求められています。

女性医師のパワーを日本女医会が結束して大きなうねりを作り、医療行政を動かし就業環境整備が整うことを期待します。

## 明けまして おめでとうございます

高知支部 窪 斐子

明けましておめでとうございます。

この度高知支部長になりました。

日本女医会は結成されて100年以上の歴史ある会であり、当県からも宮地国栄先生をはじめ窪敦子先生、小出つ子先生、浜崎浜子先生と個性的で立派な先生方がなさっており、私など大変おこがましいのですが、継続していくこと、次の世代にバトンタッチすることが大切な私の役目ではないかと考え、お引き受け致しました。

今年の抱負は“耳をすまして良く聞くこと”と考えています。今の世の中は不可解なことや非条理なこと、やり場のない悲しみに包まれ生きていく意欲が持てない時代だと思われまふ。それでも相手の言うことに耳をすませば、本質が見えてくるのではないかなと思うのです。そして一個人にできることは参加すること、自立すること、今一歩前に足を踏み出すことではないかと考えています。

女性医師の生の声を聞くことがこれからの日本女医会の進む道を明らかにし、さらに会員確保にもつながるように思います。

どうか宜しくご指導の程お願い致します。

## 年頭にあたって

福岡支部 坂本雅子

あけましておめでとうございます。

一昨年の福岡地方は、福岡西方沖地震をはじめ、大きな試練の年でした。

その際は、橋本会長から直ちにお見舞いいただき、その迅速なお心づかいに心より感謝いたしました。この場を借りまして、全国の皆様にもお礼を申し上げます。

さて、支部の状況ですが、数年前は活発に活動していましたが、水田祥代会長が九州大学病院

長に、理事の稗田慶子先生が福岡県副知事に、事務局長の坂本が福岡市助役にとそれぞれ多忙な要職になりまして、「女医の社会参画」という点ではモデルのような面はありますが、女医会活動としてはひと休みの状況です。新しく若い方に参加していただき、新しい出発をと願っています。

今年は、医療制度の大きな改革も待たなしのようです。大学や病院、行政、それぞれの勤務の中でも苦労の日々が続くようです。

皆様、御健勝にて御活躍されますよう祈っております。

## 命を守るために

佐賀支部 太田記代子

初春は「いやしけ吉事」と万葉歌を毎年思い起こします。21世紀も6年目、新世紀こそは平和で生命が大切にされる世紀にと祈りましたが、戦は続き日本もきな臭くなっていますし、医療は圧迫がひどく健康や命が粗末にされる国になりつつあり危惧しています。

日本はWHOが健康達成度世界1位と分析し、世

界一の長寿国。かたやGDPに占める医療費の割合は世界で18位と低廉な医療費で健康満足度を築き上げていることを世論として盛り上げ、生命を大切にする国づくりを促進すべきと思います。

秦始皇帝の不老長寿の仙薬を求め蓬莱を目指した徐福。蓬莱は日本とされ、佐賀には徐福の恋物語まで伝承されています。その佐賀から日本女医会の使命を思い結束を叫び、病や戦で命が奪われない世界を祈ります。

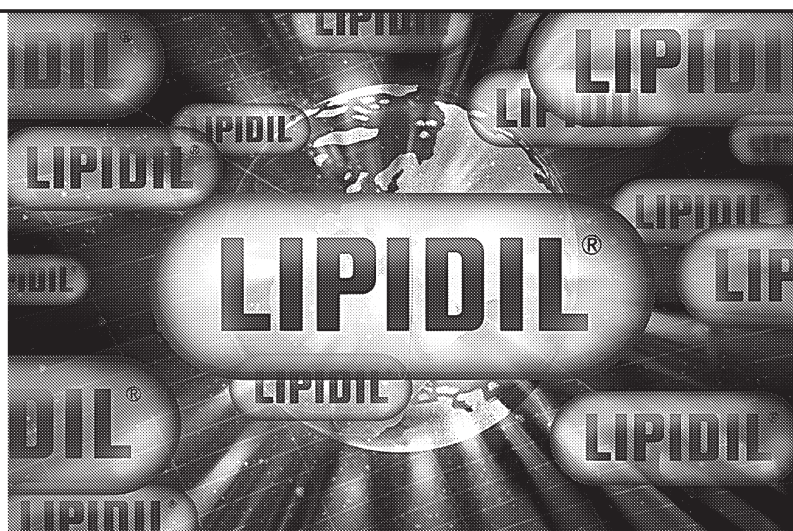
## 魅力ある会をめざして

長崎支部 石井伸子

あけましておめでとうございます。

年の初めに今年こそ新たな進展と願い、これまでの会の活動を振り返ってみました。

8年程前に発足した長崎県女性医師の会は、会員数約100名、役員10数名でこれまで活動を続けてきました。女性医師の抱える諸問題に関するアンケート調査、院内保育所に関する調査、女性医師が大学勤務を続けるために、などの調査を企画、実施してきました。



**LIPIDIL® Cap.**

●薬価基準収載

## 高脂血症治療剤

指定医薬品 処方せん医薬品 注意-医師等の処方せんにより使用すること

**リピディル® カプセル 67/100**

(微粉化フェノフィブラートカプセル)

● 効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、添付文書をご参照ください。

製造販売元 **あすか製薬株式会社**  
東京都港区芝浦二丁目5番1号

提携 **Laboratoires FOURNIER S.A. (France)**

発売元

[資料請求先]

**科研製薬株式会社**

〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28-8

(2005年9月作成) 05X2

今ふり返ってみると、いろいろと問題提起をしてきましたが、周りを少しでも変える力になったかと考えると、どれも成果に繋がっていない気がします。継続したプッシュがもっともっと必要なのでしょう、いま一つエネルギー不足を感じます。役員は皆前向きですが、それぞれ忙しく、会の活動の難しさを痛感しています。毎年1回の総会と講演会は8回を数えました。女医として働く上での課題などを中心に様々な方にご講演をお願いしてきましたが、悩みは集まりが今ひとつという点です。女医たちがいかに忙しく、余裕のない毎日を過ごしているかを表しているのでしょうか。

今年こそ魅力ある会をめざして一歩前進できればと願っています。

## 近況報告

宮崎支部 柊山 緑

宮崎県内の日本女医会は殆ど存在しない程度の現状であり、誠に心苦しく申し訳なく思っている。

更に私自身も心身共の加齢性変化を認め、企画する力もない状態である。より若い先生方の奮起を心から期待してやまない。

県内には120名以上の女医が在籍しており、平成16年度には宮崎保険医協会が女性医師・歯科医師の会を発足させ、現在まで4回開催されたが、出席はかなり低調である（最高19名、最低4名）。

この現実の起因とする原因を何はともあれ、先ず追究せねばならない。

## 新年おめでとうございます。

沖縄支部 外間登美子

昨年は激動の酉年でありましたが、沖縄支部の会員にとりましては、吉田春子先生を偲ぶ1年でありました。吉田先生（東京女子医専昭和11年卒）は戦後の沖縄に戻られ、長年地域医療に尽くされた後、平成16年11月に生涯を閉じられました。沖縄県医師会報2月号には嶺井美津先生が追悼文を書いておられます。日本医事新報10月号には植田浩司先生の「琉球の風疹大流行1965」に吉田先生の功績が記載されています。生前の吉田先生は常に後輩を育てることに心を砕いておられました。沖縄支部は会員数の少ない支部ではありますが、吉田先生の残された教えを大切に新年も女医会の活動を継続させたいと考えています。

## 医師募集のお知らせ

水と緑に囲まれた町立の地域病院に従事してみませんか。

奥多摩町国民健康保険 奥多摩病院

東京都西多摩郡奥多摩町氷川1, 111  
一般病院 49床 Tel 0428 (83) 2145

### ● 募集医師

① 常勤の内科医師

② 非常勤の当直医師

(月～木までの間で、週1回程度)

※ 待遇面等詳細については、電話にて相談。



## 平成17年度 学術講演会

### 学術講演会を開催して

学術担当理事 山本 纈子

平成17年10月22日(土)の午後5時から定例の学術講演会が、慈恵医大青戸病院副院長・伊藤 洋先生をお迎えして開催されました。先生は、精神神経科医で、ご専門の領域における臨床の立場から睡眠障害に興味を持たれ、今では日本におけるこの方面の第一人者のお一人です。最近では睡眠障害がクローズアップされ、テレビやラジオで頻繁に放送されていますが、簡潔・明瞭な語り口が評判で、たびたびご登場されています。

話の内容は睡眠障害のパターン、特殊な症候を呈する睡眠障害をわかりやすく事例をひいて解説され、それらに対する治療法について詳細にお話し下さいました。

入眠障害、熟眠障害、中途覚醒など睡眠障害は、日常生活上の良い睡眠を得るための注意が肝要であるが、現代生活ではそれがなかなか困難であるため、結局は薬物に頼ることになっている点を強調され、その場合は障害のパターンに応じた的確な薬物を選択し、きちんと服薬するように指導する必要があると述べられました。

特殊な睡眠障害として睡眠時無呼吸症候群、レム睡眠行動異常、ムズムズ脚症候群などを取り上げられて詳細に説明されました。いずれも考えられるほど稀なものではなく、日常診療で時に遭遇する疾患・病態です。睡眠時無呼吸症候群は広く知られていますが、後2者については一度聞いたり、診療したりすれば忘れることのない特徴的な症候を呈するもので記憶にとどめておくように指摘されました。

レム睡眠行動異常は、レム睡眠時にみている夢の如く行動するもので「大声で叫ぶ」、「となりに寝ている人を叩く」などの異常行動を呈するが、これの特効薬はクロナゼパムであることを覚えておくことと役立つと教示下さいました。ムズムズ脚症候群は、夜間に下肢が不随意に動く事によって睡眠が妨げられる病態で、軽いものには下肢の火照り程度の訴えもあること、L-dopaが有効な例が多い事などを話されました。これらのものは知って的確な治療薬を処方すれば有効性が高く、多くの医師を転々と受診し

ている患者さんにとって大きな福音で、会員の日常診療に非常に有用な内容と好評でした。

今回の聴講者は40名と余り多くはありませんでしたが、とてもよく理解できたと評判でした。参加の方々から講演内容は非常に良く、是非多くの会員に聞いていただきたいとの声があがっていました。次回からは一人でも多くの会員が参加できるような方法、日時を選定するように勘案したいと思いますので、宜しくお願いいたします。

### 睡眠障害治療の重要性

東京慈恵会医科大学 精神医学講座  
伊藤 洋



最近行われたわが国における大規模疫学調査では、一般人口の約20%が不眠など睡眠

に関する何らかの問題を持っていると報告されている。従来不眠は本人の苦痛は生じるものの、生命予後には影響を与えないさほど重要ではない症状として捉えられていた。しかし1990年代の主にアメリカにおける研究結果から、不眠による日中の過度の眠気は精神運動機能を低下させ、交通事故や作業中の事故ばかりでなく、時には社会的大事故（スリーマイル島原発事故、スペースシャトル爆発事故）などの原因となりうる危険な病態であると考えられるようになってきている。つまり不眠などの睡眠障害は間接的にはあるが、患者の生命にも危険を及ぼす可能性を持つ病態と考えられる。事実、不眠症患者や睡眠時無呼吸症候群患者の交通事故の危険率は健康者の2～3倍に達し、しかも悲惨な死亡事故が多いとする報告も知られている。

こうしたことから米国では1994年からWake up Americaという大キャンペーンが行われ、睡眠障害に対する治療の重要性が強調されている。さらに2000年代に入り、糖尿病などの生活習慣病に際しては高頻度に不眠を認めることが明らかにされており、我々の調査でも糖尿病患者の約25%に不眠を合併し、糖尿病の重症度が高まると不眠の頻度も高まることが明らかになっている(表)。

また糖尿病や高血圧症では、睡眠時無呼吸症候群が高頻度に合併し、パーキンソン病などの神経疾患ではレム睡眠行動障害やムズムズ脚症候群などの特殊な睡眠障害を合併するという興味深い報告もある。一方正常者においても睡眠時間制限(人工的不眠)は交感神経活動を亢進し、インシュリン分泌

には影響を与えないものの、耐糖能を低下させることが知られるようになってきている。つまり不眠は糖尿病や高血圧症を悪化させる可能性が高いと考えられる。また最近では糖尿病に合併する不眠を治療することにより、糖尿病自体も改善する可能性を示唆する研究報告も認められている。

したがって糖尿病や高血圧などの治療に際しては不眠の合併にも留意し、不眠などの睡眠障害が合併する場合にはその治療も併せて行うことが患者のQOLを向上させるだけでなく、身体疾患自体の治療にも有利に働くことを知っておくべきである。

### 不眠症と不眠の訴え

対象：2型糖尿病患者 98例 年齢 52.9 ± 12.7歳  
罹病期間 9.4年 HbA<sub>1c</sub>：8.3 ± 1.8% BMI：22.2

	糖尿病群 (N = 98)	対照群 (N = 153)
不眠の訴え+	25.3%	11.6%
寝つきが悪い	16.7%	2.7%
夜中によく目が覚める	18.8%	6.8%
明け方早く目が覚める	11.7%	0.7%

植松（慈恵医大精神科調査）：Jpn Gen Hosp Psychiatry 2004.

## 第8回 国際女医会西太平洋地域会議

### 見聞記

ナショナルコーディネーター 内湊安子

Golden Health Care Towards The “Silvering” Years というタイトルのもとに国際女医会西太平洋地域会議（国際女医会に参加している6ヶ国が3年ごとに順番で開催する）がマニラで2005年11月10～12日に開催された。開催前からかの地の女医会との連絡がスムーズでなくやきもきすることが多く、開催後の進行もいかばかりかと心配していたが、杞憂に終わらずその通りの進行となった（それにつけても2年前の日本で開催した国際女医会議の準備と開催、進行は世界に誇ることができる。このような会議は今後しばらくは開催されないのではないかと思う）。

30分から1時間のプリーナリー講演がほとんどすべてを占めており、各国の状況を興味深く拝聴できた。初日の午前には胎児や子どもの健康と将来の

疾患について、午後は糖尿病などの生活習慣病に関すること、女医のテニュアトラック(\*)について、2日目の午前には感染症予防とストレスマネジメント、午後は高齢化社会に向けての対策について、その方面のスピーカーから講演があった。

フィリピンではいまなお新生児死亡率が低くなく、出生1日目の死亡率が高いということ、母乳哺乳率が約50%ということ、子宮内発育が十分でないことが母体の栄養状態（鉄欠乏性貧血など）にもかなり依存していることが報告された。

一方、糖尿病をはじめ生活習慣と強く関連する疾患との闘いはどの国でも同じ状況で、女医の地位の向上と同様、今後とも各方面でのさらなる挑戦が必須となることが確認できた。日本でも高齢になると女性の糖尿病有病率が男性より高くなるが、フィリピンでも同じであったことは特に興味深い。最近のフィリピンでの調査によれば網膜症頻度は8.4%、白内障が25%、神経障害が54%、Cr2以上が6%であったという。

女医が医療に向いているのではないかと強調していた。これは頷けることであるが、実際各国ともアカデミーポジションに就いてリーダーとして活躍する女医の数は限られている。この打開に向けてもっともっとアカデミー面での女医の活躍がまずもって必須であろう。



\* tenure-track……いづれ終身的地位が認められる教職身分、終身的身分につながるコースにある、という意味で、テンポラリーの身分でもなく、将来性、終身的身分のコースにあることをいいます。

(広報部)



## 目は口程にもものを言う—Cの大事

理事 濱田啓子

今回機会を与えられ、マニラでの国際会議に出席した。テーマはシルバーエイジに向けてのゴールデンヘルスケアという事だった。こういう会議の意味はどこにあるのだろうか？ マニラは私にとってはほとんど未知の土地である。札幌から羽田経由成田への機内でガイドブック2冊を乱読。熱帯性モンスーン気候に属しているフィリピン群島。7,107もの島々が扇状に広がっている。人口は7,650万余。ここは約380年余にもわたりスペイン植民地支配を受け以後、アメリカ・イギリス・日本がいずれも武力で占領。言語、文化、人種がかなり複雑で、かつスペイン植民地時代が長かったせいで、アジアでは珍しいキリスト教徒の多い国。カトリックが85%を占めるといふ。大日本帝国の侵略後、またアメリカがフィリピンを奪回。以降アメリカ主導型の政権が持続。マルコス大統領独裁に入るが（かのイメルダ夫人は余りにも有名である）、アキノ元上院議員の暗殺後、アキノ、ラモス、エストラーダと政権が代わり、女性のアロヨ大統領が現在の政権を統治している。

国際空港に入ってまず驚き。ツアーリストの案内で税関も難なく通過。ほとんどがフリーパス状態である。VIPルーム（大した部屋ではなかったが）へと導かれる。汚職の臭いがプンプン。着いたマニラホテルはすごいホテル。がしかし、全員が入口で金属探知器のシャワーを受ける。荷物も全て空港並みの厳重なチェックである。

この夜は国際女医会元副会長（西太平洋地域担当）Dr. Dizonの招待を受け、オーストラリア、台湾、日本グループはRich Areaへ。個人の住宅における豪華なディナー。

車の中から見かけたストリートチルドレンとの余りの違いに愕然。この国はrichとpoorの間に大変な距離があると推測。何だか美味しい食事ものど越し悪しといった感じ。次の日のwelcome dinnerはフィリピン女医会本部の建物の中で

行われた。ホテルからこのビルディングに着くまでの1時間半、なんという交通渋滞（東京のラッシュアワー並みか）、やっとパーティーが始まったとたん、電源out（over heatingらしい）。せっかく用意されたフィリピンの先生達が本当にお気の毒ではあったが、ろうそくの中、隣の台湾のDr.とマニラ事情を情報交換、国は違えど思うことは同じということか？ この貧しい国からは大勢の人々が日本、台湾等々の国々へ出稼ぎに出ている由。1ペソは2円位で金持ちの人に使われている住み込みの若きドアガールの人の（居食住はまかなわれているとの事だが）報酬が1ヶ月当たり600ペソ余（つまり1ヶ月の給金が日本円にして1,200円余り）と聞かされると心が痛む。日本人の、今の自分の環境を見つめ直す。恵まれていることを当然と思い、不足にのみ目がいき、心惑わされる自分がある。幸せとは何なのか？ 日常から離れ、旅に出るといつも考えさせられる。

—貧しさの中にある<sup>こう</sup>幸、<sup>ふこう</sup>不幸—  
—豊かさの中にある<sup>こう</sup>幸、<sup>ふこう</sup>不幸—

豪華な会議の期間中、心身の健康的な生活を送り続けること、シルバーエイジにむかい歩み続けるとはどういうことなのか？ 改めて考えさせられた。

最後に催された夕方6時から始まり11時半までと延べ5時間半にわたるフェアウェルレセプション（さよならパーティ）。これ程長い時間のレセプションは生まれて初めての私にとり、少々戸惑ったが、これもフィリピン方式か？ “郷に入っては郷に従え”という諺もある。普段ではあまり深く話しをすることのなかった日本人同士の（内部での）コミュニケーションも、外国の先生達との（外部への）



コミュニケーションも、こういう会議の大きな贈り物（賜物）ではないかと考えさせられた。

国際女医会長 Gabrielle Casper さんが言っていたリーダーとしての6つのC

Care	世話、用心
Character	人柄、人格
Conviction	信念
Composure	平静、沈着
Competition	競争
Courage	勇氣

これはリーダーとしての大切な6Cであると話されていたが、私はこれに7つ目のC“communication”が加わると人が更に魅力的に心豊かになれるのではないかと考えた。

各々の国には各々のやり方があるが、基本的には言葉を越えたコミュニケーションがあるのではないか？

“目は口程に物を言う”という諺がある。Communicationという7つめのCがこれからの第9回国際女医会西太平洋地域会議（2008年シドニー）においても、2007年に行われる第27回国際女医会議のガーナに向けても、最も必要とされる要素なのではないかと改めて考えさせられた。

## フィリピン印象記

岩手支部 斉藤恵子

### ●マニラ行きの念願が叶えられて

かねてより日本女医会の先生方が参加される国際学会に参加したいと願っておりましたが、このたびのマニラでの国際女医会西太平洋地域会議に参加することで漸く実現できました。

フィリピンは軍医となった父が戦死した国であり、その死が私に医師にならねばと決意させた原点でもあったのでマニラでの国際女医会議は大いに心惹かれました。

母は何度も慰霊の旅に出かけていましたが、私は国際医学学会には出かけても私にとって大切なこの国には一度も訪ねて来ておりませんでした。3年前に母を看取って後、フィリピンに行かねばならないとの思いが急速に募っていましたが、実現できたので夢のようでした。マニラに着くまでに橋本葉子先生や大坪公子先生のお父様も軍医として働かれ生還なさったことをうかがうことが出来ました。

政情が不安定なようにも理解されており心配も少

なからずありましたが、お話をお聞きしながらこの先生方と一緒にのだからと不安は安心に変わりました。

### ●第一印象

会場および宿泊先となったマニラホテルは、1912年に建立されて以来のマニラの歴史を見てきた風格と優雅さを備えた建物でした。マニラ湾沿いにあり美しい夕陽が見られると期待しましたが、滞在中の4日間ずっと曇りの日が続き目の当たりに出来ませんでした。戦後60年のわが国やこの国の苦難を思い万感胸に迫るものはありましたが、人々の明るさと早くも町中を彩るクリスマスの装飾の豪華さが平和と繁栄を象徴しているように感じました。時折見かけるストリートチルドレンや物乞いする母子に出会っても、どこの国にも、見られる光景と納得いたしました。

### ●豊かさや貧しさ

色彩豊かな民族衣装で迎える開催国の女医さんたちは笑顔が豊かでアットホームな雰囲気を醸し出していました。橋本先生、平敷先生はじめ日本からの皆様が各国の先生方と旧交を温められている様子を頼もしく拝見しました。華やかに装った人々が出入りするのを垣間見ながら、富裕な人々が少なくないと推察されました。

かねてお目にかかることを約束していた西本神父をホテルから10分ほどのオフィスに伺いました。西本神父はこの国の貧困な女性たちが日本人にだまされ偽装結婚で出国、日本につくや離婚させられ、酒場などで非人間的な扱いを受けることを防ぐべく、この神父を通じて初めて国際結婚が許可されるように漕ぎ着けたこと、結婚後は必ず日本の生活を訪問することで女性たちが不幸になることを防いでいるなどをお聞きしました。スモークマウンテンといわれるいわゆるスラムで助け合って暮らす人々の貧しくもおおらかで心豊かな人々のことなどがいました。あくどい日本男性の存在、家族のためにとその餌食になって身を売る貧しい女性たち、メタボリックシンドロームを議論しながらむさぼる美食過食の富める人々、糖尿病の増加が問題になっている国情、真の幸せとは、と問わずにはいられない現実はこの国にも顕著でした。

しかし先進国と称されているわが国の男性たちがこの国においてまで犯している醜い行為を恥ずかしく思われてなりません。

### ● 苦しいときも楽しいことを考えることが出来る フィリピン人

開会前日の女医会館での前夜祭は開会まもなく停電に見舞われました。この日のために歌や踊りを準備した人々を思うと気の毒でしたが、最後まで停電は回復しませんでした。特に右往左往することなく、自然にキャンドルパーティに変わったのもこの国らしいおおらかさなのでしょう。

一般的に日本であれば、来客に一生懸命恐縮して謝罪したり、さぞびりびりした雰囲気となるのではないかと思いました。挨拶、余興がないので最初は間が抜けた感じだったのですが、それぞれテーブルでゆっくり話が出来たのは怪我の功名でした。

中庭では、その会館にある学校に通っている中学生と先生がこの夜を楽しいお祭りとして盛り上げようと集まっていました。中庭で造られている料理にも興味があり行ってみると子供たちに囲まれました。かしこそうな、明るいまなざしの子供たちで

た。この国の未来を背負う人たちに期待をこめて話し話しこんでしまいました。民族衣装の着物姿も興味を引いたようでした。

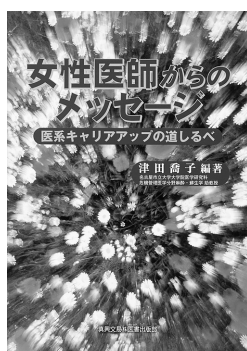
### ● 祈りや歌

開会や閉会の式が国歌と女医会の祈りで始まりました。フィリピン女医会の歌も美しく崇高な思いが高まりました。平敷先生、内潟先生のご活躍は誇らしい限りでした。

最終日の懇親会ではフィリピンの民族衣装と踊りが華やかで賑わいました。その土地に伝わる文化、芸能が受け継がれるための平和があってこそしみじみと思われてなりません。わが国からの出し物は大坪公子先生がオペラ蝶々夫人からアリア「ある晴れた日」を歌われ、私は背後で日本舞踏的に舞いました。

国情は違っても女性医師として取り組む問題は共通、レベル差を補い合い、協力し合い世界平和への大きな力になるのだと感じました。

## 書評



### 女性医師からの メッセージ

医系キャリアアップの  
道しるべ

津田喬子 編著

真興交易(株) 医書出版部  
2005年12月10日発行  
2,500円＋税

本書は1999年、日本で開催された第11回国際女性技術者・科学者会議に出席、その医療部門分科会で、日本を代表する多くの女性医師・研究者と出会い、大きな贈り物を得たことが、この書の発刊につながったと編・著者の津田喬子先生が前書きで述べられています。先生は第50回日本女医会総会（愛知県開催）で、吉岡弥生賞を受賞されています。

内容は次の4部に分かれています。

- I 素晴らしき、医系のロールモデル
- II キャリアをみがぐために
- III 多様な選択肢の存在

### IV 未来への扉

27名の執筆者は医学における研究・教育・臨床・地域活動に、専門性を活かし存分に活動されている方々です。その立派な肩書きに圧倒される思いで読み進むうちに、1世紀余りに女性医師として誕生された日本の荻野吟子、アメリカのエリザベス・ブラックウェルのような先達の努力が世界各国でこのように実を結んだのだという思いにうたれました。この執筆者の方々は、今こそ、医学の各分野で頂点に立っていらっしやいますが、先人同様、自らの力で困難を克服して現在に至ったのだということが良く理解されます。志に燃えて出発点に立っている方、その道の半ばを走り続けている方、一休みして過ぎた道をふり返っている方、皆さまに是非一読なさることをおすすめします。すべての項を興味深く読みましたが、私的には女性医師の今後の活躍への大切な提案が示されている貴巴（田中）富久子先生の文章には強く共鳴させられるものがありました。

(理事・山崎康子)

(社) 日本女医会「働く女性のための育児環境整備支援委員会」主催

# ワークショップ「病児保育を考える」を開催して

理事 齋藤加代子



平成 16 年より『働く女性のための育児環境整備支援事業』として、独立行政法人福祉医療機構の助成金（子育て支援基金）を受け、病児保育をとりあげて、全国保育施設に対するアンケート調査、講演会に行っていました。本事業の一環として、平成 17 年 11 月 13 日（日）に大阪府医師協同組合新本部ビル 8 階大ホールにおいて、ワークショップ「病児保育を考える」を主催いたしました。この度は病児保育発祥の地とも言える大阪における開催でした。川田喜代子先生、保坂智子先生はじめ大阪府女医会の先生方の多大なるご支援をいただき、盛会でございました。深謝申し上げます。

ワークショップは二つの講演を含み、以下の内容で行いました。

講 演：「病児保育」のあゆみ  
保坂智子先生（枚方病児保育室理事長）

- ワークショップのテーマ
- ①保育士の看護実習
  - ②看護師の保育学習
  - ③利用者への教育
  - ④財政基盤の確保と行政へ期待すること
  - ⑤病児保育の充実のためにできること

講 演：「病児保育」の未来へ  
帆足英一先生（全国病児保育協議会顧問）



定員は 150 名としておりましたが、194 名の出席となり、活発に討議がなされましたことをご報告いたします。

池谷紀代子委員、野原理子委員にはワークショップ開催へのご尽力に感謝申し上げます。



## 日本女医会第9回ブロック別懇談会

### 群馬支部 山下由起子

日本女医会ブロック懇談会が、去る平成17年11月19日(土) マーキュリーホテル(前橋市)にて、開催されました。群馬県女医会では、それに先立ち秋季講演会を行いました。講演は前橋市在住で、埼玉医科大学放射線科教授・平敷敦子先生(日本女医会理事)にお願いし、「勤労者の健康管理—外科的急性腹症の画像診断」という演題で1時間半にわたり60枚余りのスライド使って、講演をしていただきました。当日は昼過ぎより、赤城おろしの冷たい風が吹いておりましたが、男性医師も含め39名(うち懇談会出席31名)の出席があり、皆さん熱心に静聴されました。

日本女医会第9回ブロック懇談会は、同じ会場で約10分間の休憩の後、コーヒー、紅茶、ケーキが供され、和やかな雰囲気の中で始まりました。まず、鹿田儀子日本女医会副会長から、日本女医会の現状と今後の活動についての話がありました。現在の活動として具体的には、性教育について、病児保育の問題、学会での託児室の設置などの取り組みが行われているという報告でした。次に、渋谷きよみ理事より日本女医会の歴史について、平敷敦子理事より、日本女医会に入会することのメリット・デメリットについて話がありました。会員同士が、出身校や専門分野を超えて、お互いに助け合い、女性の地位向上を目指す事が重要であると強調されました。

その後の意見交換では出席者からも、さまざまな意見が出ました。「今後、ますます女性医師が増えていくことと思われるが、女性医師を取り巻く環境は、まだまだ、整備されているとは言いがたく、日本女医会が率先して、地位向上を目指していかねばならない」「会員をさらに増やしていくにはどうしたらいいのであろうか、特に若い世代の会員を増やしていったほうがよいのではないか」「大学単位で会員を勧誘した方が効率がよいのではないか」など、約1時間におよび、非常に活発なやり取りが行われ、皆さんの熱い思いが伝わってきました。

また、近隣の埼玉県や栃木県から出席された会員の先生、理事の先生からは、日本女医会を通して、世界へ目を向けようというアピールがあり、日本女医会の活動への参加が呼びかけられました。

例のアスベスト騒ぎのため、直前に会場が変更と

なるアクシデントがありましたが、30名以上の女性医師たちが集まり、盛会のうちに閉会となりました。今後の発展に期待を寄せたいと思います。

### 理事 角田由美子

平成17年11月19日、群馬県前橋市マーキュリーホテルにおいて第9回ブロック別懇談会を開催しました。群馬県女医会から20名、栃木支部から1名、埼玉支部から1名の参加者が有り、本部からは鹿田副会長を始め6名の理事が参加しました。

今回の懇談会は、午後3時から開かれた群馬県女医会の秋期講演会(平敷理事の急性腹症の画像診断)にひき続いて開催されました。

懇談会は、鹿田副会長の開会の挨拶に始まり、ついで渋谷理事が日本女医会の簡単な歴史を話されました。本年は創立103年になります。会の現状と今後の活動については鹿田先生より詳しくお話し頂きました。日本女医会では女性医師の抱える諸問題を先取りして解決すべく努力していること、また今取り組んでいるテーマは病児保育であること、女性医師が多くなっている現在、日本医師会を始め多くの公的機関等も女性医師の代表団体としての日本女医会の意義を認め、様々な働きかけがあることなどをお話しされました。

これらの要請にきちんと応えていくためにも多くの会員のお力添えが必要です。

次期国際女医会会長の平敷理事は、若い頃、女医会の先輩に励まされたことが現在の自分に繋がっていること、今は各大学間の壁は取り払われて非常にフランクな会であることなどをお話しされました。

その後お集まりの先生方の中から、特に会員でない先生方からのご意見をお聞きしました。会の存在を知らなかったとの声が圧倒的に多く、まだまだ広報の足りなさを痛感しました。ホームページも良く出来ているのですが存在を知らなければ見て頂くことも出来ません。大学の教授、助教授に働きかけてその先生方から入会を勧めて頂ければ良いのではとの声もありました。

1時間あまりの短い時間でしたのでまだまだ語り尽くせなかった事が多いのですが、その場で入会を約して下さった先生や再入会を考えると仰った先生もあり、会のご紹介が出来てよかったと思っております。

ます。またご入会下さった先生方が積極的に色々な会に参加されて、入会してよかったと思って頂けるようにと祈っています。

本会の開催にあたっては群馬支部会長の田所先生

を始め山田邦子先生のお力添えを頂き、事務的な面では山下由起子先生にお骨折りを頂きました。改めてお礼を申し上げます。有り難うございました。



## 日本にも子ども家庭省を

栃木支部 水島広子

衆議院議員時代に最も力を入れていたテーマの一つが、日本にも「子ども家庭省」を作る、というものでした。

少子化という結果を見るまでもなく、日本は子ども関連の政策や家族政策が大変立ちおけている国です。子ども・家族政策に使われているお金の額は、先進国の中では極端に低い位置づけとなっています。

家族を持ち、子どもを育てるという当たり前のことがなぜこれだけ困難に感じられるのか。なぜ子どもたちが健やかに育つ環境を社会は提供できないのか。衆議院議員になって、行政全般を見渡す立場になり、やはり子ども・家族政策を包括的に立案・遂行していく省庁が必要だということを確認するに至りました。

子ども関連の政策は、多くの省庁にまたがっています。保育・学童保育や医療は厚生労働省。幼稚園と学校、さらに最近始まった全児童対象の放課後クラブは文部科学省。非行に及ぶと警察庁。さらに法に触れると、法務省。子どもを取り巻くメディアや産業については、総務省や経済産業省。子どもの生活のハード面は、国土交通省。このように、見事に省庁縦割りです。各省庁も、ピラミッド型組織である以上、省庁間の連携には限界があります。省庁だけを責めても解決する問題ではありません。

縦割り行政の弊害は子どもだけでなく大人にも及んでいますが、子どもの場合、さらに問題なのは、政策決定の場に参加できないということです。本当は自分たちにこそ関係のあることなのに、意見を反映させる機会を与えられていないのです。今の政治を見ると、まずは利権のある大人たちに優先権があり、次に、利権のない大人たちが続き、子どものことは最後によく、という状況です。

私自身、最初の衆議院選に立候補したとき、「子どもたちが健康な心をもって成長できる社会の実現

を」と訴えましたところ、「子どもには票も利権もないんだから、そんなことを言っていたら当選できない」と注意されてしまいました。まさに、日本の現状を物語っていると痛感しました。

そこで、子ども家庭省構想が意味を持つてくるのです。子ども政策・家族政策を一元的に立案・遂行する子ども家庭省を設置することによって、縦割り行政の弊害をなくし、包括的な取り組みが可能となります。その結果、行政を膨張させることなく、効率的に施策を実現することができるのです。

私がお手本にしているのは、ノルウェーの子ども家庭省です。ノルウェーの子ども家庭省は1991年に設置されました。子ども家庭大臣を責任者として、青少年局、家族福祉局、消費者局、計画官房局及び広報局から構成される政策実施・サービス提供機関です。主な役割は、(1)消費者の権利、利益及び安全性の保護、(2)青少年の育成環境づくり、社会の意思決定過程への参加機会の保障、(3)家族に対する経済保障及び社会保障、(4)完全な男女平等の実現などです。

学校教育などは教育研究省が所管となりますが、子ども家庭省が、各省庁の子ども関連の政策の報告を受け、全体的に調整する機能も持っており、まさに、一元的・効率的な政策の立案・遂行が行われていると言って良いでしょう。

また、もう一つ重要なのが「子どもオンブード」です。子ども家庭省は、あくまでも内閣の一部ですから、その政権の意思が反映されます。政権から独立して普遍的な子どもの権利を守るために設置されているのが子どもオンブードです。予算は子ども家庭大臣のもとにあります。権限は完全に政府から独立しており、あらゆる公的機関への立ち入り、あらゆる公的文書の閲覧の権利を持っています。そもそも、子ども家庭省という省庁も、子どもオンブードの提言によって作られたようで、ノルウェーでは「子どもの権利の番犬」と呼ばれていました。

日本にも早く子ども家庭省と子どもオンブードがセットでできるよう、皆さまもご関心をお持ちいただければ幸いです。

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

## ■支■部■だ■よ■り■

## 若い先生方の入会を

神奈川支部 大竹輝子

神奈川支部は本年18年に結成40周年を迎えようとしております。

毎年1回総会を7月に行っております。総会の後は学術講演をいつも講師をお招きして行っていますが、内科的な講演は日本医師会関係にも沢山ありますので、できればそれ以外の他科に関するお話の方がと、ここ数年は眼科の先生の糖尿病による眼底所見とか形成外科の最近の情報とか、昨年7月には泌尿器専門医の関口由紀先生に「原因の分からない女性の下部尿路疾患の診断と治療」というお話を伺いました。それぞれに自分の担当する科目以外のお話は普段あまり聞き及びませんので、大変興味深く心に残るものがあります。

その後は懇親会でお食事を共にしながら、和気藹々のうちに各人が短時間でスピーチをするのですが、出身校も違い年令もまちまちで、お若い先生方

にはとても聞きごたえのあるものようです。女医会の集まりというと、とても怖いおばさま方の集団とか尻込みをしておられる方達もあるようなのですが、とんでもありません。各先輩方は開業以来のいきさつとか、子育てをしながらの苦労話とか、それを乗り切って現在に至っている、各人各様の一言がとても有意義に伝わっていつも楽しい会になっております。

それにも拘わらず、いつも出席者は会員総数の30%位で残念なことです。やはり高齢化して体のトラブルも多いためなのでしょう。それにはもっともっと若い方々に入会して頂かなくてはと思います。

そして2007年には日本女医会の総会も神奈川県でお引き受け致しました。神奈川は施設の面からも“みなとみらい21”として目覚ましい発展をしております。私たち会員も何とか皆様のご期待を満たすべく努力をして参る所存でございます。

是非来年5月の日本女医会総会には奮ってご参加下さいませよう、今からお待ち申し上げております。

WAKODO

乳幼児便秘治療剤

薬価基準収載

## マルツエキス分包

## 【特徴】

- マルツエキスの主成分は麦芽糖ですので、浣腸・下剤と異なり、穏やかで自然な排便を促し、便通を整えます。
- 甘さがあり水あめ状なので、乳幼児にも飲みやすい薬です。
- 便秘時には食欲減退を来しやすいものですが、不足しがちな栄養の補給に役立ちます。
- 甘い麦芽糖を主成分としておりますが、ショ糖(砂糖)は含んでおりません。
- 分包品なので、調剤時に計量する面倒がなく、容易に服用することができます。また、保存にも衛生的です。

## 【組成】

マルツエキス100%(でんぷんを麦芽で糖化しカリウム塩を加え、減圧濃縮した水飴状の製剤で、麦芽糖を60%以上含有する。)

## 【効能・効果】

乳幼児の便秘/乳幼児の発育不良時の栄養補給

## 【用法・用途】

- 1歳以上3歳未満…1回 9~15g
  - 6か月以上1歳未満…1回 6~9g
  - 6か月未満…1回 3~6g
- いずれも1日2~3回経口投与する。



赤ちゃんに自然な排便を！  
マルツエキスが分包品として、初めて薬価基準に収載されました！



資料請求先

製造販売元 和光堂株式会社

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

04.08

# ((( 理事会議事録 )))

日時：平成17年9月10日(土)  
午後3時00分

場所：日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、鹿田、大坪、古賀、斎藤、澤口、澁谷、角田、中山、濱田、松井、村田、森川、山崎(ト)、山崎(康)、山本(續)、山本(蒔)(以上19名)

欠席者：内潟、船越、平敷、川田、橋川(以上5名)

庶務報告／会計報告／各部報告

## 議題

1. プロジェクトチームの件
  2. 次期ブロック別懇談会の件
  3. 医師確保対策：医師再就業支援事業に関して(資料1)
  4. アリコジャパンについて
  5. その他
- 6月理事会議事録を承認

## 報告事項

1. 庶務報告 角田理事  
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 森川理事  
平成17年7・8月分収支別紙どおり報告、

承認される。

## 3. 各部報告

**【渉外部】** 松井理事  
自由民主党主催「主要団体実務者との懇談会」、内閣府男女共同参画室主催「男女共同参画推進連携会議第19回全体会」、内閣府男女共同参画室主催「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰者との懇談会」に出席の報告

**【事業部】** 村田理事  
「いきいき」執筆者が来年3月分まで決定した旨の報告。協力に感謝の辞。石原副会長より支部会員へ執筆依頼はどうかと提案があり、前向きに検討。

**【広報部】** 山本(蒔)理事  
日本女医会誌第183号を発送済み。日本女医会第184号の原稿を募集中。内容の充実を検討している。

**【学術部】** 斎藤理事  
10月22日開催の「学術講演会及び懇親会」に出席申込者は現在20名。それに伴い、10月理事会を同日京王プラザホテルで14時から開催する旨、石原副会長より報告があった。

## 協議事項

1. プロジェクトチームの件  
・大坪理事より  
独立行政法人福祉医療機構「長寿社会福祉基金」へ申請する「高齢者在宅支援事業・たんの吸引を安全に実施する

ための教育講習会」について2年間に亘る事業内容の詳細について説明。

・石原副会長より  
独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」へ「小児の救急医療について」と題し「母親への教育」等救急医療の必要性について検討中である。

テーマとしては「虐待」が最重要視されているようだが、女医会としては関わり方が困難であるため、「虐待」では申請できない。

2. 次期ブロック別懇談会の件  
11月19日(土)、群馬支部・平敷理事を講師とした講演会を前橋市・医療センターで15時より開催、その後「ブロック別懇談会」開催を提案された。

講演会終了後に出席の女性医師をお誘いする。参加者数にかかわらず、女医会のPRと活動内容を理解してもらうためにも開催を決定。石原副会長、鹿田副会長、古賀理事、澁谷理事、角田理事、平敷理事、村田理事、山崎(ト)理事の8名が出席の予定。

3. 医師確保対策：医師再就業支援事業に関して橋本会長より配付資料に基づき説明があった。厚生労働省より「女性医師の再就業支援事業」へ、全国組織の日本女医会を運営母体としての協力依頼があった。「日本文化厚生農業協同組合」が全面的に支援してくれる予定。来年度の国家予算として申請中である。

# 自然と健康を科学する漢方のツムラ



ツムラ茨城工場(医療用漢方製剤専用工場)

ツムラは、医療用漢方製剤の科学的研究を通じて、  
21世紀の健やかな長寿社会の実現に貢献していきます。



**株式会社ツムラ**

東京都千代田区二番町12番地7〒102-8422  
<http://www.tsumura.co.jp/>



日本女医会にとって社会的価値が試されることであり、受理された場合全面的に協力する。

#### 4. アリコジャパンについて

森川理事が代表してアリコジャパンと面談。「女医会会員へ有利な資産運用」の話を伺う。女医会として、特に紹介料が入るなどメリットがないし、似たような商品も多々あるので女医会としては紹介しない。一度位パンフレットを会誌に封入しても良いのではとの意見もあった。

#### 5. その他

- ・明治座 12 月公演観劇券購買の協力依頼。1 枚につき 2 千円の利益がある。
- ・大坪理事より、山崎元会長の著書『命を見つめて一魂に寄り添った女医の物語』購買協力依頼。又、大日本印刷より「会誌送料、500 グラムまで超安価」の申し出があり、依頼することに決定。
- ・加藤副会長が日本医師会「最高優功賞」を受賞された。

**日時：**平成 17 年 10 月 22 日（土）  
午後 2 時 30 分

**場所：**京王プラザホテル

**出席者：**橋本、石原、加藤、鹿田、内潟、大坪、古賀、澤口、澁谷、角田、中山、船越、平敷、松井、村田、森川、山崎（ト）、山崎（康）、山本（蒔）、川田（以上 20 名）

**欠席者：**斎藤、濱田、山本（續）、橋川（以上 4 名）

庶務報告／会計報告／各部報告

#### 議題

1. 第 51 回定時総会の件（選挙も含む）
2. 平成 18 年度年間スケジュール（案）
3. その他
  - ・ブロック別懇談会について
  - ・「健やか親子 21 推進協議会」会費について

9 月理事会議事録を承認

#### 報告事項

1. 庶務報告 古賀理事  
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 船越理事  
平成 17 年 9 月分収支別紙どおり報告、承認される。
3. 各部報告

**【広報部】** 大坪理事  
10 月 5 日に会誌 183 号の広報部会を開催。今月中に発送する予定。

ホームページを大幅にリニューアル済み。

**【学術部】** 内潟理事

本日理事会終了後「平成 17 年度学術講演会」を開催。出席申し込み者は 39 名。懇親会までの出席申し込み者は 24 名。

#### 【石原副会長より】

10 月 20 日厚生労働省母子保健課・佐藤係長と面談の報告。

#### 【平敷理事】

以前より調整中の大学連絡係は来月理事会に最終報告を提出予定。

#### 協議事項

1. 第 51 回定時総会の件（選挙も含む）
  - ・来年 5 月・第三土曜日（5 月 20 日）に開催。
  - ・11 月 12 日の東京都支部連合会・総会に出席の際、石原副会長から正式に協力依頼する。
  - ・選挙のある場合は評議員会開始を 10 時にする等の変更の見込み。
  - ・選挙が 2 年に一度となった場合、東京で開催するか否かを話し合い、経済的負担を無くし、会議のみ行えば、集客の良い東京でも良いのではないかと、その意見が多々出された。評議員会・総会の議題として提出する。
2. 平成 18 年度年間スケジュール（案）  
来年度 4 月と 6 月理事会開催日を、配布の資料を参考に 4 月 22 日（土）と 6 月 24 日（土）に決定。
3. その他

#### ・ブロック別懇談会について

11 月 19 日に開催される群馬県女医会秋季講演会後に群馬支部山田邦子先生等のご尽力により開催される。会次第は石原副会長が「女医会の歴史」、鹿田副会長が「現状と今後の活動方針」、平敷理事より「メリットとデメリット」発表。本部より 8 名、群馬女医会からは 40 名出席の予定。埼玉支部長と栃木支部長には連絡済み。少しでも PR をしたい。

- ・「健やか親子 21 推進協議会」会費について  
「健やか親子 21 推進協議会」第一課題構成団体へ会費（1 万円）の協賛依頼があった。
- ・「吉岡弥生賞、荻野吟子賞選考規定」について

内容の変更があったが、「規定」の改正をしていない。内容改正の詳細は庶務部で検討し、次回理事会で検討。ホームページには広報部で簡単なお知らせを作成、掲載する。

・女性医療ネットワークからの案内の送付依頼。

今回は見送る。次回より企画前に相談するよう、回答する。

・内閣府男女共同参画局から内閣府男女

共同参画局のホームページへ掲載依頼。承認

- ・長野支部長内坂先生より「十代の性と健康指導者養成講座」開催希望  
具体的な企画書と見積書を提出してもらい、その後改めて検討する。
- ・丸大ハムより、会員住所シールの希望  
個人情報保護法施行もあり今回はお断りする。
- ・埼玉県の養護教師より「10 代の性と健康」ビデオの一部を自作の DVD に使用したいとの希望  
日本女医会の名前を必ず入れる事、一枚必ず送付する事で回答する。
- ・角田理事より  
12 月 17 日の理事会後に行う忘年会会場「ハナダ・ロッソ」の説明があった。

**日時：**平成 17 年 11 月 26 日（土）  
午後 3 時 00 分

**場所：**（社）日本女医会会議室

**出席者：**橋本、加藤、鹿田、大坪、古賀、澤口、澁谷、角田、中山、濱田、平敷、松井、村田、森川、山崎（ト）、山崎（康）、山本（續）（以上 17 名）

**欠席者：**石原、内潟、斎藤、船越、山本（蒔）、川田、橋川（以上 7 名）

庶務報告／会計報告／各部報告

#### 議題

1. 吉岡弥生賞選考規定、荻野吟子賞選考規定の件（資料 1）
2. 会員名簿の件
3. その他・職員賞与について

10 月理事会議事録を承認

#### 報告事項

1. 庶務報告 澁谷理事  
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 濱田理事  
平成 17 年 10 月分収支別紙どおり報告、承認される。
3. 各部報告

・角田理事より  
11 月 19 日群馬県前橋市で開催された「第 9 回ブロック別懇談会」の報告。

群馬県女医会より 20 名（内女医会会員 9 名）、栃木支部・埼玉支部より各一名、本部よりの 6 名の出席があった。女医会についての理解が深まり、成功裡に終了。平敷理事の講演会後に開催したため集客も良かった。今後も講演会等と並行して開催する事を検討する。

・平敷理事より  
11 月 10 日～12 日に開催された国際

女医会・西太平洋地域会議の報告。

フィリピン女医会の講演会、定時総会を兼ねており、大変時間がルーズであったが、熱心さが伝わって来る会であった。韓国より12名、日本より7名、台湾より2名、オーストラリアより2名の出席があった。

【事業部】 平敷理事

・大学連絡係の件  
 〈資料2〉に基づき説明。再連絡後、郵便が戻ったり、反応が少ないのが現実である。理事の推薦があれば依頼がしやすいので、協力の要請。

【渉外部】

・松井理事より、11月22日「自由民主党立党50周年記念党大会」出席の説明  
 ・澤口理事より本日（11月26日）「2005年NGO日本女性大会」出席の説明

【広報部】 山崎理事

・会誌185号の原稿募集中。

【学術部】 山本（續）理事

・10月22日の学術講演会はとても内容が良かったにも拘わらず参加者が少なく、勿体ない。今後は一般の方の参加も可能としたり、またスポンサーをつけるなど、新しいやり方・広報の方法も考える。

【鹿田副会長より】

・11月13日開催された「働く女性のた

めの子育て支援事業・ワークショップ」成功裡に終了との報告。「病児保育」に対する必要性が年々高まっている中、日本女医会の活躍が期待されている事を感じた。

**協議事項**

1. 吉岡弥生賞選考規定、荻野吟子賞選考規定の件

古賀理事より、先月討議された内容について（資料1）検討する。本日検討した内容を整理し、次回理事会に提出する。

2. 会員名簿の件

来年は「会員名簿」発行の年に当たるが、個人情報保護を重視した施策を検討する。個々に名簿記載項目についての問合せを庶務部で作成し、日本女医会誌に掲載（または別刷）と決定。

3. その他

・職員賞与について  
 2.6ヶ月、支給日は12月2日（金曜日）とする。

・橋本会長へ横浜市大麻酔科春山直子氏より、女性医師を応援する討論会を企画し日本女医会へ協力を求める連絡があった。橋本会長、石原副会長、平敷理事で面談し協力するか否かを決定する。

・「特別会計」に関する知識が全くなく、現実どのような形になっているか知りたいという希望が橋本会長より出された。1月か2月の理事会で勉強会をする。

・山崎理事より

神奈川県医師会から「女性部会設立のためのアンケート」が送付されて来たが、どのように対応すべきか意見を求めた。下記のような意見が出された。

山本（續）理事：日本女医会独自でやっていくシステムを作らないと大きな力に太刀打ちできないと危惧している。

平敷理事：各専門医学会も女性医師部会を作りつつあるので、その中に日本女医会員を一人ずつでも入ると、ある程度の橋渡しができるのではないかと。カリスマ性も必要であるし、機会がある毎に「日本女医会」をアピールする事にしている。

山崎（ト）理事：年間で開催した講演会等の内容を一冊の冊子にするとういのは。

大坪理事：日本医師会の女性医師懇談会に出席しているが、「女性部」があってもそれは時代の趨勢であり、100年の歴史のある日本女医会は自信を持って活動を続けることが必要ではないかと。

以上

**●名簿記載項目についてのお伺い●**

2006年は日本女医会名簿作成の年になります。従来通り下記の項目の記載を考えておりますが、個人情報保護法の制定に伴いまして、会員各位のご意向をお伺いします。

ふりがな (ローマ字)	出身校	勤務先	E-Mail
氏名 (旧姓)	卒年 専門	勤務先住所 自宅住所	電話 FAX 電話 FAX

もし名簿に掲載したくない項目がございましたら、3月31日までに事務局にご連絡ください。

FAX 03-3498-8769

またはメール office@jmwa.or.jp

また、訂正箇所のある場合もご連絡ください。ご連絡のない場合には 従来どおりに記載させていただきます。

なお会員名簿には通し番号をつけ、

- ・会員相互の連絡という目的以外の使用を禁ずる
- ・本名簿が不要となった場合には個人の責任を以って処分する

の文言を記載します。

**会員動静** (2005年12月20日現在)

新卒入会	吉田 慶子	北海道	亀谷真智子	(平15年卒)	東女学内	
	藤倉小百合	渋谷	檜垣 祐子	(昭57年卒)	東女学内	
入会	高橋 美貴	港	中村 玲子	(平3年卒)	静岡岡	
	大町 佳永	都下	青山 裕美	(平元年卒)	岐阜卓	
	村岡 真理	(昭54年卒)	青森	小瀧 光子	(平5年卒)	広島島
	大瀧 正子	(昭48年卒)	宮城	望月喜久子	(昭26年卒)	大阪大4
	加藤まこと	(昭44年卒)	群馬			
	新倉 保美	(昭62年卒)	群馬			
	山下由紀子	(昭54年卒)	群馬			
	柳川 洋子	(昭44年卒)	群馬			
	米谷もりの	(昭24年卒)	群馬			
	工藤 寿美	(平7年卒)	茨城			
	春山 直子	(平2年卒)	千代田			
	加茂登志子	(昭58年卒)	東女学内			
復会						
退会						
事故						
			13名			
	福原 輝	(昭20年卒)	青森			
	清水 有子	(昭15年卒)	大田			
	唐沢 寿	(大13年卒)	葛飾			
	白浜 光子	(昭17年卒)	中野			
	蕪木 英	(昭20年卒)	静岡			
	小松 郁子	(昭17年卒)	長野			

NOVARTIS

REAL VALUE

THE ARB  
選択的AT<sub>1</sub>受容体ブロッカー  
DIOVAN

VALUE

Val-HeFT

VALIANT

ABCD-2V

NAVIGATOR



選ばれしもの。

**【禁忌(次の患者には投与しないこと)】**  
1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者  
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

**【効能又は効果】**  
高血圧症

**【用法及び用量】**

通常、成人にはバルサルタンとして40~80mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが1日160mgまで増量できる。**【使用上の注意】**(一部抜粋)

**1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)**

- (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者(「2. 重要な基本的注意」(1)の項参照)
- (2) 高カリウム血症の患者(「2. 重要な基本的注意」(2)の項参照)
- (3) 重篤な腎機能障害のある患者(腎機能障害を悪化させるおそれがあるため、血清クレアチニン値が3.0mg/dL以上の場合には、投与量を減らすなど慎重に投与すること。)
- (4) 肝障害のある患者、特に胆汁性肝硬変及び胆汁うっ滞のある患者(本剤は主に胆汁中に排泄されるため、これらの患者では血中濃度が上昇するおそれがあるため、用量を減らすなど慎重に投与すること。外国において、軽度~中等度の肝障害患者でバルサルタンの血中濃度が、健康成人と比較して約2倍に上昇することが報告されている。)
- (5) 脳血管障害のある患者(過度の降圧が脳血流不全を引き起こし、病態を悪化させるおそれがある。)

**2. 高齢者**

**2. 重要な基本的注意**

- (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者においては、腎血流量の減少や糸球体濾過圧の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがあるため、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。
- (2) 高カリウム血症の患者においては、高カリウム血症を増悪させるおそれがあるため、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるため、血清カリウム値に注意すること。
- (3) 本剤の投与によって、初回投与後、一過性の急激な血圧低下(失神及び意識消失等を伴う)を認めるおそれがあるため、そのような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、特に次の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に投与を行うこと。
  - 1) 血液透析中の患者
  - 2) 利尿降圧剤投与中の患者(特に重度のナトリウムないし体液量の減少した患者(まれに症候性の低血圧が生じることがある))
  - 3) 厳重な減塩療法中の患者
- (4) 本剤を含むアンジオテンシンII受容体拮抗薬投与中に肝炎等

の重篤な肝障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど観察を十分にを行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。  
(5) 手術前24時間は投与しないことが望ましい。  
(6) 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。

**3. 相互作用**

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等  
カリウム保持性利尿剤: スピロノラクトン、トリウムレン等  
カリウム補給剤: 塩化カリウム  
(血清カリウム値が上昇することがあるので血清カリウム濃度に注意すること。)

**4. 副作用**

承認時までの調査556例中、自他覚症状が68例(12.2%)、臨床検査値異常が58例(10.4%)、計120例(21.6%)に副作用が認められた。主な自他覚症状は、めまい14件(2.5%)、腰痛9件(1.6%)、咳嗽7件(1.3%)等であった。また、主な臨床検査値異常は、ALT(GPT)上昇18件(3.2%)、CK(CPK)上昇17件(3.1%)、AST(GOT)上昇14件(2.5%)等であった。市販後の使用成績調査6,478例中、自他覚症状が324例(5.0%)、臨床検査値異常が214例(3.3%)、計538例(7.7%)に副作用が認められた。主な自他覚症状は、めまい157件(0.9%)、頭痛24件(0.4%)、動悸110件(0.2%)等であった。また、主な臨床検査値異常は、血中尿酸値上昇33件(0.5%)、BUN上昇30件(0.5%)、血清クレアチニン上昇27件(0.4%)等であった。  
(承認時まで及び市販後2003年5月までの集計)

**(1) 重大な副作用**

- 次のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 1) 血管浮腫(頻度不明): 顔面、口唇、咽頭、舌の腫脹等が症状としてあらわれることがあるので観察を十分に行うこと。
  - 2) 肺炎(頻度不明)
  - 3) 腎不全(頻度不明)
  - 4) 高カリウム血症(0.1%未満): 重篤な高カリウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。
  - 5) ショック、失神、意識消失(頻度不明): ショック、血圧低下に伴う失神、意識消失があらわれることがあるので、観察を十分に行い、冷感、嘔吐、意識消失等があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。特に血液透析中、厳重な減塩療法中、利尿降圧剤投与中の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に投与すること。
  - 6) 血小板減少(0.1%未満)
  - 7) 間質性肺炎(頻度不明): 発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常等を伴う間質性肺炎があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
  - 8) 低血糖(頻度不明): 低血糖があらわれることがある(糖尿病治療中の患者であらわれやすい)ので、観察を十分に行い、脱力感、空腹感、冷汗、手の震え、集中力低下、痙攣、意識障害等があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

その他の使用上の注意等詳細については、製品添付文書をご覧ください。



選択的AT<sub>1</sub>受容体ブロッカー

薬価標準収載  
**ディオバン錠** 160mg  
80mg  
40mg

指定医薬品

処方せん医薬品

注意 - 医師等の処方せんにより使用すること

DIOVAN

バルサルタン錠

製造販売

(資料請求先)

NOVARTIS DIRECT  
NOVARTIS ファーマ 株式会社  
東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

NOVARTIS DIRECT

0120-003-293  
受付時間: 月~金 9:00~18:00  
www.diovan.jp

2005年7月作成

日本女医会定款第二十四条に基づき、平成十八年五月二十日(土)・京王プラザホテルにおいて、平成十八年度定時総会を開催いたします。同時に第十五条の規定により、現役員任期満了に伴う役員選挙を行います。

なお、立候補の届出は、定款施行規則第十七条により、平成十八年三月二十一日(火)、本部に必着を厳守願います。

■選挙に関する定款

及び定款施行規則の抜粋

定款第十四条

理事二十一名以上二十五名以内(内会長一名、副会長三名)

監事二名

定款施行規則第七条

選挙人は、選挙の九十日前までの正会員とする。被選挙人は、入会后三年経た正会員とし、会費完納者とする。

定款施行規則第十七条

立候補者は、選挙の告示のあった日から選挙の日の六十日前までに立候補届を文書で理事会に届出なければならぬ。

届出書類

(一) 立候補届

(二) 規定の履歴書

立候補届に関する書類(一)、(二)は、本部にあります。お申し込み次第お送り致します。立候補は、自薦のみです。

社団法人日本女医会 第51回定時総会のお知らせ

新しい年を迎え、諸先生にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

第51回日本女医会定時総会は、東京において下記の予定で開催致します。今年は日本女医会の役員改選の年でございますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席を賜りますようお願い申し上げます。

日時 平成18年5月20日(土)  
場所 京王プラザホテル  
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1  
電話 03-3344-0111

評議員会	10:00 ~ 12:00
選挙	13:00 ~ 14:00
総会	14:00 ~ 15:00
講演会	15:30 ~ 17:00
懇親会	17:30 ~ 20:00

※時間と内容は多少変更する場合がございます。詳細は次号にてお知らせ致します。

◆評議員会および予備評議員の改選

定款施行細則第24条により各支部において、評議員1名、予備評議員1名(再選可)を選出され、平成18年3月末までに本部にお届け下さい。

なお、新評議員および新予備評議員の任期は平成18年4月1日より平成20年3月31日までとなります。

◆東京都支部連合会による行事

- ・5月20日(土) 懇親会の前に人間国宝中村富十郎丈の舞踊をご覧頂きます。
- ・歌舞伎座(内容未定)、新橋演舞場(吉右衛門、福助、染五郎出演予定)、明治座(石川さゆり特別講演)の観劇切符をお取りします(5月19日(金)夜の部、5月21日(月)昼の部)。

編集後記

新年おめでとうございます。年頭所感で各支部長先生が述べられているように日本女医会の発展のために今私達が何をなすべきかを考え行動していかなければならない時です。第51回定時総会は東京の京王プラザホテルで開催されます。今年は役員改選の年ですから、皆様是非ご出席をお願い申し上げます。

第8回国際女医会西太平洋地域会議はマニラで開催され楽しい会でした。毎日診療に追われている私達は、このような会に出席してリフレッシュするのはとても良いと思いました。2007年ガーナでの国際女医会議も楽しみです。

「ひたぶるに平和に生きむ国際の女医の会議は楽しきものよ」(大坪公子)

日本女医会誌

復刊第185号 2006年1月25日発行  
編集人 大坪公子  
発行人 橋本葉子  
制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769  
http://www.jmwa.or.jp  
e-mail: office@jmwa.or.jp